

〈出会い〉のドラマ [資料]

1 ドラマとしての〈出会い〉

- 〈出会い〉のないドラマ、ドラマでない〈出会い〉は存在しない。
- 〈出会い〉(邂逅)とは何か? →他者との遭遇=偶然

「偶然の「偶」は、双、対、並、合の意である。「遇」と同義で遇うことを意味している。……偶然性の核心的意味は「甲は甲である」という同一律の必然性を否定する甲と乙との邂逅である。我々は偶然性を定義して、「独立なる二元の邂逅」ということができるであろう」(九鬼周造『偶然性の問題』岩波文庫、122頁)

- 〈出会い〉〈あいだ〉〈縁〉

① 〈あいだ〉を開く、② 〈縁〉を結ぶ、③他者と〈出会う〉
これら三つの行為は、いかに関係するか。

2 〈出会い〉と〈別れ〉

- 忘れ得ぬ〈出会い〉——教師時代
- 繰り返される〈別れ〉と〈出会い〉——Cf. 中島みゆき「時代」

「時代」(作詞・作曲：中島みゆき)

今はこんなに悲しくて 涙も枯れ果てて
もう二度と笑顔にはなれそうもないけど

そんな時代もあったねと
いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと
きっと笑って話せるわ
だから今日はくよくよしないで
今日の風に吹かれましょう
まわるまわるよ時代は回る
喜び悲しみくり返し
今日は別れた恋人たちも
生まれ変わってめぐり逢うよ

旅を続ける人々は
いつか故郷に出逢う日を
たとえ今夜は倒れても
きっと信じてドアを出る
たとえ今日は果てしもなく
冷たい雨が降っていても
めぐるめぐるよ時代は巡る
別れと出逢いをくり返し
今日は倒れた旅人たちも
生まれ変わって歩きだすよ

まわるまわるよ時代は回る
別れと出逢いをくり返し
今日は倒れた旅人たちも
生まれ変わって歩きだすよ

今日は倒れた旅人たちも
生まれ変わって歩きだすよ
今日は倒れた旅人たちも
生まれ変わって歩きだすよ

「〈出会い〉のドラマ」ノート

1 ドラマとしての〈出会い〉

Q. 〈出会い〉はドラマである。どうしてそう言えるか？

→①思いがけない、不意打ちの出来事＝「偶然」。偶然は、「独立なる二元の邂逅」（九鬼）。

九鬼周造：生涯にわたって、〈邂逅〉を求め続け、その意味を考え続けた人物。私の『邂逅の論理』にインスピレーションを与えたキーパーソン。

② 〈出会い〉は、必ず〈別れ〉を伴う。→2

〈出会い〉 〈あいだ〉 〈縁〉

4月から6月のテーマは、① 〈あいだ〉を開く、② 〈縁〉を結ぶ、③ 他者との〈出会い〉

→Q. これら三つの行為は、いかに関係するか。

甲と乙とは、別々の道を歩んでいる。その時点では「無縁」。ところが、何かのきっかけ（「袖すり合うも…」）によって、言葉を交わすなどの関わりが生まれる。相手と向き合うことで、甲と乙の「独立なる二元」が、〈自己〉と〈他者〉、〈私〉と〈汝〉として出会う＝③。そのとき、どちらかから言葉を発し、相手がそれに答える。これによって〈対話〉が生まれ、甲と乙とに〈距離－接近〉〈対立－結合〉のダイナミズムが成立する＝①。対話をつうじて、接近・結合の動きが明らかになったとき、甲と乙との〈縁〉が確認される。

2 〈出会い〉と〈別れ〉

・〈別れ〉のない〈出会い〉はありえない。

→尾崎ムゲン先生の思い出——HP「エッセイ」6月号に記載

・中島みゆき「時代」

二つの謎：

1) 歌詞の順序——なぜ〈別れ〉が〈出会い〉に先行するのか？

2) タイトル「時代」の意味とは？

〈出会い〉〈別れ〉が、恋人同士の出来事だとすると、「時代」はそぐわない。

二番の歌詞に「旅人」とあることに注目（単なるラブ・ソングではない）。一つの「時代」を生き、そこで「倒れた旅人」は、違った別の時代に「生まれ変わって歩き出す」。仏教的な輪廻に近いが、同じことの繰り返しではなく、新しい時代に生まれ変わるというメッセージには、仏教とは異なる哲学的意味あり。（中島みゆき本人は、天理教信者とのこと）。

次回——「哲学講話」は、〈かたち〉。「哲学対話」は、前期（3～6月）のプログラムから、改めて対話したいトピックを持ち寄って、その中からテーマ（複数可）を選ぶ。